

令和6年度 第1回 横浜美術館指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 令和6年8月7日（水） 13時30分から15時10分まで
- 2 場 所 横浜美術館 円形フォーラム
- 3 出席者 太下 義之 委員、垣内 恵美子 委員、笠原 美智子 委員、丸山 宏 委員、  
吉富 多美 委員
- 4 傍聴者 なし

5 議事内容

議 題	<p>1 議題1：委員長選出</p> <p>2 定足数の確認</p> <p>3 委員会の公開・非公開について</p> <p>4 議題2：令和5年度業務評価</p>
議事・委員意見等	<p>1 議題1：委員長選出 「横浜美術館指定管理者選定評価委員会運営要綱」第6条第1項に基づき、委員の互選により丸山委員を委員長に選任した。</p> <p>2 定足数の確認 委員数5名のうち5名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。</p> <p>3 本委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜美術館指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、公開とした。</p> <p>4 議題：令和5年度業務評価</p> <p>(1) 指定管理者による自己評価 指定管理者から、令和5年度の実績及び自己評価についての説明があった。</p> <p>(2) 行政評価 業務評価表に基づき、事務局から行政評価の要点について説明があった。</p> <p>(3) 委員による評価 委員から指定管理者に対する評価内容の説明及び質問を行った。</p> <p>&lt;主な意見及び質疑内容&gt; (以下「・」は委員、「→」は指定管理者、「⇒」は事務局)</p> <p>・横浜トリエンナーレが一過性のもので終わらないよう、出展作品から何点か収集して、展覧会と作品収集が結びつく形を考えてほしい。 ⇒第8回横浜トリエンナーレでの出展作品について、購入できないか検討している。</p> <p>・PLOT48では、小ホールで実施するレクチャーなどは場所的にも内容的にもよかったと認識しているが、大規模改修後の横浜美術館では、それと同じような場所やプログ</p>

ラムがあるのか。

→横浜美術館には、PLOT48の小ホールより大規模なレクチャーホールがある。PLOT48のようなカジュアルな雰囲気はなくなるが、そこでレクチャーすることを予定している。また、新たに整備する「じゅうエリア」にイス、テーブルを設置して、さっと集まって事前の説明をしたり、簡単なレクチャーをしたりできるよう想定しており、PLOT48で評価いただいた点を引き継ぎつつ、気軽に参加できる小さなものから、きちんとしたレクチャーまで行いたい。

・市では長期修繕計画があるのか。

⇒現在、市全体で施設の管理計画を策定する取組を進めており、その中で、文化施設の管理計画も将来的に作っていかうという動きになっている。現在は施設の状況をしっかりとチェックし、修繕すべきタイミングで修繕を行っている。

・予備的修繕を行った方がトータルコストとしては安くなる。横浜美術館の長期修繕計画はぜひ作ってほしい。

・会議のペーパーレス化や在宅勤務等の多様な働き方についてはどのような状況か。

⇒市としてペーパーレス化は積極的に取り組んでいる事項であり、本委員会で配布する資料についても、プロジェクターに投影でも構わないのであれば、今後はそのような形としたい。

→ペーパーレス化は進んでいるが、リモートワークは市と違ってまだ体制が整っていない。多様な働き方やカーボンニュートラルにつながる話であり、少しずつ努力していきたい。

・設備運転監視業務委託が入札で不成立だったのは、どのような理由からか。

→事業者にはヒアリングすると、準備期間が短く非常に厳しいという声があった。そこで、契約決定から業務開始までの期間を長く取り、現場説明の期間を設けるなどして、令和7年4月から委託業務に移行できるよう準備を進めている。

→多様性をテーマとして、子どもという切り口をはじめ、経済格差や障害の有無による差の解消などに携わっていくことは公立美術館のミッションだと思っているが、こういった取り組みに関してはコストがかかるのも事実としてある。一方で、国や行政からは、もうける、にぎわいを生み出す、税金を無駄にしないことが求められている。処方箋について委員の考えがあれば伺いたい。

・明確な回答を持ち合わせているわけではないが、成果の見せ方の1つとして、入館者数の数え方はあると思う。出入口にセンサーを付けて、施設のミッションに沿った形で利用者としてカウントすることが考えられる。もう1つ、例えばルーブル美術館では、入場料を値上げしてお金を支払ってくださる方から料金を取って、若者や様々な条件を抱える方々は無料にしている。

→じゅうエリアの無料利用者についてカウントすることは、準備を進めている。

#### 【評価する点】

・大規模改修中に第8回横浜トリエンナーレを準備し、きちんと開催できたことは特筆すべきである。また、トリエンナーレの一環としてこどものアートひろば「は

らっぱ」を開設し、複数のワークショップを実施したことも大きな成果だ。

- ・文化事業としてリニューアルの時期にやるべきことはしっかり行っており、充実した事業展開だった。

- ・休館中だからこそできるアウトリーチを積極的に実施していたことを評価する。

- ・休館中、33団体と連携して各種プログラムを実施したのも、大きな功績だった。

- ・「ミュージアムメッセージ」という形で「みなとモデル」を提出し、新たなビジョンを提示したことは素晴らしい。

- ・達成指標と各年度の実績について、長期的な視点からいろいろと考えられている。指定期間の10年間を見据えて業務計画を今後、検討していく姿勢が伺えたので、中身を充実させてほしい。

#### 【更なる取組を期待する点】

- ・横浜トリエンナーレは8回目ということもあり、今後の戦略を考えるために、きちんと総括したほうがよい。

- ・横浜トリエンナーレの取組では、国際的にどれだけ評価されているのかということについて、アピールをより一層していくべき。

- ・アウトリーチは、横浜美術館に足を運ぶことができない層を掘り起こし、こちらからアクセスすることに非常に大きな効果があると思う。どのような効果、成果があるのか総括しながら進めていくことが、より効果的な予算の使い方にもつながる。

- ・デジタルアーカイブの整備は、単にアーカイブするだけではなく、自由利用の推進を積極的に進めてほしい。直接来館しなくとも、横浜美術館の文化資産に触れる1つの大きなチャネルになる。大規模改修に伴う休館という貴重な経験を得られた横浜美術館だからこそ、きちんと取組んでほしい。

- ・学芸グループのチームリーダーが欠員になっているが、本質的には職員の待遇改善や働き方改革を指定管理者と市が一体となって進めていく必要があるのでは。空いたポストが埋まらないのは、横浜美術館側の努力だけでは解決しない課題があるからではないかと考えられる。

- ・じゆうエリアが今後どのように使えるのか、更なる情報発信を期待する。

- ・かなり大きな規模の予算を使い、非常にいい活動をしているが、うまく市民の方々に理解してもらわないとこれからは厳しい。長期的視点に立つと、他の施設と合併したり、他の機能をつけたりしながら、本来やるべきことが少しずつ収縮して

しまうのではと危惧している。横浜美術館の支援者を作っていこうと努力しているとは思いますが、時代の動きが激しいので、今後のことを戦略的に考えていく必要があるのではないか。

- ・目標のほとんどが、実施か非実施かになっているが、本当に大事なものは、やったかどうかというアウトプットではなく、やったことが実際にどういう意味を持っているかというところのアウトカムだと思う。そういうところまで評価で踏み込んでほしい。

- ・横浜美術館の意義や価値を市民や市民以外の方に伝えていくときに、評価資料が市民に対してそのまま伝わるようなものであってほしい。

- ・ミュージアムメッセージがあまり評価と紐づいていない。当面の間は子どもと子育て世代をターゲットに設定していることは良いと思うが、年間でどのくらいの子ども、子育て世代にリーチできるのか。10年間でどのくらいまでそれらの来館者を増やせるか、増やすべきか。質的な部分でも、来館者にどういうインパクトを与えていくのかをきちんと設定して、何らかの方法で計測していくことが望ましく、評価表にも落とし込んでほしい。

## 5 まとめ

本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを改めて清書し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとした。